

八雲台小学校納涼まつり 7/25-26

金 18:00-21:00
土 17:00-20:00

八雲台小学校
納涼まつりに
今年も地区協から
出店します!!

ポップコーン
ドリンク
ミニウィンナー

ご協力のお願い

地区協ブースとまごじばーズ
ブースで子ども店員を受け入れ
ます。運営委員の皆さま、見守り
などぜひお手伝いください。

PTAに協力して
納涼まつりで子ども店員
を受け入れます♪

あそびに
来てね〜〜!

2学期の予定

11/22(土) 9:00~

6年ぶりに地区協主催で
インクルーシブな防災訓
練を実施します

防災フェス

内容(予定)

- やさしい防災スタンプラリー
- 体験コーナーを回るとスタンプが!!
全部集めると記念品をプレゼント
- 子どもたちが案内役・サポート役として活躍
- 防災グッズづくり~新聞紙でスリッパを作ろう
- みんなで作る「こんな避難所にしたい」
ツリーづくり
- ハンディキャップ体験
- 消防車・起震車などの展示、乗車体験
- 消防団の方の実演
- 体育館で寝袋に入って寝てみよう
- 避難所トイレで座ってみよう
- 要配慮者避難行動支援名簿の配布
- アンケートの配布、回収

2019年の防災訓練の様子

PTAからのお願い

公園で **見守り強化**をお願いします
★地域の力で事件事故を防ごう★

※夏休み、近所の公園等にお立ち寄りください。大人の目があるだけで防犯意識が高まります。地域の安全を守るために、皆さんの協力が必要です。また、公園などで見守り活動を行うことで、子どもたちが安心して遊べる環境を提供することができます。ご協力よろしくお願いします。

次回の見守りパトロール

●7/18(金)AM8:00
●8/28(木)AM9:00
@あそびバ前集合

いざというとき支え合える地域に
なるよう、ぜひご参加ください

発行:八雲台小学校地区協議会
広報担当役員:千坂真衣
問合せ:080-2242-9749
yagumosyo@docomo.ne.jp

つながる誌

第13号 2025年7月
八雲台小学校地区協議会広報誌
会長:添田光威

6/1(日)古武術歩行・街歩き

「古武術歩行」9~10時あそびバ集合
武術の動作を日常生活やウォーキング
に取り入れて、疲れにくく転びにく
いカラダづくりを目指しています。
先生の解説で、知らなかった自分
のカラダの仕組みに気づきます。

古武術歩行のあとはまち歩き

「まち歩き」10~12時

線路跡遊歩道(国領駅前から調布駅まで)
解説は、ここの植栽を担当された、(株)リメックスの石井誠一社
長、文化ゾーンのアーティスト、黒木3姉さん。
石井さんからは、公園のテーマに合った植物選びやメンテナンスにつ
いてお話を、歩きながら参加者からの質問にお答えいただくかたち
で、普段歩いているだけでは知る事も気づく事も無かった事をたくさ
ん教えて頂きました。また、スズメバチに刺された体験談を涼しい顔
で話す姿がとても素敵でした。
黒木さんは、調布市制施行70周年記念ロゴの作者で、市内在住のアー
ティストです。まち歩きが趣味とのことで、今回は「おもしろそうで
すね」と駆け付けてくださり、文化ゾーン設置の経緯や全作品の解説
を楽しくお話しくださいました。途中、このまち歩きに、調布エフエ
ムの取材があったのですが、そちらにも主催(梶井)とともに出演し
て頂きました。次回は、10、11、12月の第一日曜日に開催します。

(環境美化担当役員:梶井領子)

防災教育の日

4月26日に調布市・八雲台小学校・地区協議会・自治会など地域の協
力のもと、体育館にて「防災教育の日」として防災訓練が行われまし
た。八雲台小学校担当の初動要員の方、避難所担当職員の方にお
越しいただきました。

プール南側の防災倉庫に保管してあるテントや簡易トイレなどを
有事を想定して体育館に設置し、その設置方法を学ぶと共に高学年
のお子様と保護者の方にも見学・体験してもらいました。帰宅困
難者の受け入れをどう

するか、障害を持つ方や小さなお子さん
を持つご家庭の方が安心して避難でき
る環境の必要性、初動要員の方がい
ない場合はどのような対応が必要か、
など課題があることが分かりました。

(防災担当役員:西村咲枝)

防犯パトロール

定例では毎月第4土曜16時にあそ
びバ前に集合し、八雲台小学校PTA
や自治会、まごじばーズなどの地域団
体と協働し、学区内の安全を見守るパ
トロールを実施しています。

〈今後の予定〉

7/18(金)AM8:00~
8/28(木)AM9:00~
朝パトします!

集合場所はあそびバ前です。
皆様のご参加をお待ちしております。
(防犯担当役員:千坂順二)

八雲台小学校地区協議会では、
毎月1回役員会、
3か月に1回運営
委員会を開催
しています。

総会にはじまり
今学期も地域の
皆さんや学校関係
者の皆さんのお力
添えをいただき、無事
さまざまな活動ができました。
引き続きよろしくお願いいたします。

(総務担当役員:柴田正広・松村朋子)

6/5(木)甲州街道沿い花壇の整備

美化委員の子どもたちのサポートや清掃作業を行いました。地区協、PTA、
地域コーディネーターの方と子どもたちが花の苗を植えられるよ
う花壇の土に穴を開けたり、道路側の排水溝に溜まっ
た土を取り除いたりした後、美化委員の子どもた
ちを迎えました。大量のダンゴムシに驚愕し
ながら植替えを行い、植替え後はジョーロで
水をたっぷりあげました。
手入れされた花壇を保つ事で街全体の防犯抑
止に繋がります!花の植替えは6月11月の第一
木曜日、花壇整備は毎月第1・3日曜朝に行っ
ています。皆さまも機会がありましたらぜひ参加し
てみて下さい。(担当役員:佐久間忠夫)

地域とともに歩む八雲台小学校 校長先生に聞く 学校の今と未来

八雲台小学校の校長先生に、学校と地域の密接な関わり、そして今後の展望について、お話を伺う機会をいただきました。

千坂：本日はお忙しい中ありがとうございます。着任されて3か月、八雲台小学校の印象をお聞かせください。

校長先生：八雲台小学校は、地域との繋がりが非常に深いと思いました。特に学校行事においては校庭を積極的に活用し、春にはさくら祭り、夏には2日間にわたって納涼祭りを開催しています。世田谷区全体を見ても、校庭を2日間も使ってお祭りをすることはないです。

千坂：先生方は今年度、地域行事に参加されますか？

校長先生：夏休み中にはなりますが、参加する教員もいますね。比較的学校の近くに住んでいる教員が多いので、家族連れで来たりもしています。地域との温かい関係が築けていると感じています。

千坂：地域との密接な連携は素晴らしいですが、学校運営においては様々な課題もあるかと思いますが、例えば、プールの維持管理も大変だと伺いました。

校長先生：そうなんです。プールの維持管理は費用もかかりますし、教員の負担も大きいですね。水漏れのリスクや藻の発生を防ぐ薬品代など、見えないところで膨大なコストがかかっています。昔は教員が休日にも清掃や薬品投入を定期的に行っていた時期もありました。現在の猛暑も大きな課題で、教室の暑さは子どもたちも教員も大変です。

千坂：現代の子どもたちの変化、特に外遊びの減少やデジタルデバイスの普及についても、地域との関わりの中でどのように感じていらっしゃいますか？

校長先生：そうですね、昔に比べて外で遊ぶ子どもは減り、特に男の子はゲームに熱中する傾向が強いです。ゲームのやりすぎはコミュニケーション能力や、脳の発達に影響を与える可能性もありますし、大人が娯楽として楽しむような戦術系のゲームでも、子どもはそのまま影響を受けるなど危険性があります。ICTツールの普及は学習に役立つ一方で、使う人間のモラルや良心にかかっている部分が非常に大きいと感じています。親御さんには、お子さんに「教わるつもり」で接することで、子どもがオープンになり、隠し事をしなくなるというアドバイスをしています。

千坂：学校運営において、PTAや最近立ち上がったコミュニティ・スクール（CS）の役割も重要だと思いますが、その点はいかがでしょうか？

校長先生：PTAの最大のメリットは、やはり「学校と保護者の間のワンクッション」になってくれることだと感じています。保護者から学校への直接的・匿名的な不満が増える中で、PTA役員が間に入ることで、誤解が解けたり、スムーズなコミュニケーションが図れたりするケースが多いです。

千坂：CSは、PTAと異なる役割を担うのでしょうか？

校長先生：はい、CSは学校の「応援団」としての役割を担い、学校運営全体、つまり「経営」に携わる組織です。PTAは「子どもファースト」であるのに対し、CSはより広範な視点で学校をサポートします。

インタビュー



調布市立
八雲台小学校
校長
石川 淳 先生

千坂：現在CSのメンバーには現任教員や教員経験者の方が多くそうですが、今後は一般の保護者の参加も期待されていますか？

校長先生：そうですね。今は立ち上げ段階なので、学校の様子や経験がある方が多く入っていますが、今後は「応援団なんだね」ということが広く知られていけば、より多くの保護者の方にも参加いただけると思っています。地域を深く理解し、住んでいる方々の「空気感」を尊重しながら、協力的で安定したCSの運営を目指していきたいですね。

千坂：PTA活動も、コロナ禍を経て運営方針の再構築が進んでいます。活動のあり方も変化していますね。

校長先生：ええ、そうなんです。PTA活動は「やれる人が、やれる範囲で」という姿勢が重要だと考えています。あまり肩肘を張りすぎると、次世代への引き継ぎが難しくなりますからね。最近では、名前を変更する学校も出てきており、PTAのあり方は多様化していくと見ています。

千坂：周年事業なども形が変わってきているとは言え、PTAや地域の方の協力が不可欠ですね。

校長先生：はい。行政からの補助だけでは賄えない部分も大きく、地域の協力が不可欠です。地域の人材登用や周年事業の費用捻出など、今後も地域の方々と連携を強化し、学校を支えていきたいと考えています。

千坂：本日は貴重なお話をありがとうございました。地域と学校が一体となって、子どもたちの成長を支える八雲台小学校の取り組みがよく分かりました。

校長先生：こちらこそありがとうございました。

インタビュー：千坂真衣

地区協が紹介したい方の コーナー 後編 かんばら けんた さん



1986年3月兵庫県神戸市生まれ。車椅子ダンサー、システムエンジニア。二児のパパ。上のお子さんが八雲台小に通っている。先天性の二分脊椎症という障害を持つ。ダンスを始めて半年でリオパラリンピック開会式の舞台上に立ち、7万人の前でパフォーマンスをする。東京パラリンピックの開会式でもダンスを披露。サーカスアーティストとしても活動している。

（前号からの続き）

西村：ダンスを始めてからどんな経験をしてこられたんですか。

かんばらさん（以下かんばら）：2016年のリオパラリンピックの開会式で、旗を次の開催地である東京が受け取る、というセレモニーがあり、ダンスを始めて半年で、7万人の前でパフォーマンスをしました。歓声で産毛が震えるのを感じ、緊張しながらステージまでのスロープを登ったことを覚えています。

西村：7万人のステージとは、ものすごい経験ですね。

かんばら：はい。その後、歌手のAIさんのイベントで武道館でパフォーマンスしたのですが緊張してしまい、思うようなダンスができなかった。その経験から規模の大小に関係なく、人前で踊る機会を作るようにしました。そうしているうちに、一年半くらいでステージ上で自分のやりたい表現をできるようになっていきました。

西村：以前、調布市内の子どもが集まるイベントでかんばらさんのパフォーマンスを見せていただいた際、「子どもたちのための活動を優先したい」とおっしゃっていましたね。

かんばら：はい。子どもたちはいろんな可能性があり、未来があります。多様性が大事と言われるけれど、実際に人と違うということがどんなことかを経験してほしいと思っています。ぼくのダンスを見てもうことで、人と違うことはダメなことではなく、「人と違うから面白い」、「人と違っていいんだ」と分かってほしいな、と。多様性を頭で理解するのは大変ですが、「あの車椅子に乗ってみたい」と思ってもらえたら嬉しいですね。障害を持つ友達が1人いれば、それだけで障害理解につながるのではないかと思います。それができるのは、障害を持つ当事者だけじゃないかな。

西村：かんばらさんのダンスを見せていただいた時、うまく言えないのですが「見てもいいんだ」と感じました。例えば、街中で障害を持つ方を子どもがジロジロみている場合、親が差別を是正する意味で「見ちゃいけません」ということがあると思うのですが、かんばらさんのダンスは、「見てもよい障害者」であり、しかも、そのパフォーマンスを見せてもらったことでこちらがものすごく感動するという経験でした。うまく言えないのですが。

かんばら：イベント後のトークで作家の方が、ぼくのパフォーマンスについてコメントしていて、それを聞いていた人が、「言語化してくれてありがとう」と感謝されているのを見たことがあります。「見る/見られる」という話では、今、7歳の娘と4歳の息子を育てているんですが、下の子がまだ小さかった時に車椅子に載せて抱っこして、上の子と歩いている時、こんなことがありました。ぼくは普通に移動していたつもりなんですが、上の子が「いろんな人から見られて怖い」と言ったんです。障害ってぼくだけのことかと思ってたけど、家族ともシェアしているんだなあと感じました。



ご家族と

西村：なるほど。私も障害を持つ子どもを育てているので、立場は違いますが同じように感じることもあります。子どもたちへの講演ではどんなお話をされているんですか。

かんばら：主に3つのエピソードを話しています。一つ目は、人と違うということは自分にしかできないことに繋がる可能性もある、ということ。二つ目は、差別をしてくる人は相手にしないでいい。三つ目は、困った時は手伝ってくれる人を待つのではなく「手伝って」と言おう、ということ。「人に迷惑をかけてはいけない」とみんなが思いすぎているんじゃないかな。「手伝って、と言うと、大抵の人は喜んで手伝ってくれるよ」と言っています。「相談できる人がいなかったら、ぼくにメールで連絡をくれていいよ」とも伝えていきます。講演後のにみんなが書いてくれるお手紙は1000通以上のメッセージをもらいました。

西村：どんなメッセージが来たか、教えてもらうことはできますか。

かんばら：「話を聞く前は、かわいそうだと思ってたけど、かんばらさんの話を聞いたら、楽しそうだった。」とか「自分が帰国子女ということを恥ずかしく思わなくていいんだと気づいた」というメッセージをもらっています。

西村：ぜひ八雲台小学校でもお話ししてほしいです！

かんばら：ぼくはいつでも歓迎です（笑）。ぼくの障害について説明すると、二分脊椎症という障害で、いろいろな種類があるんですが、ぼくの場合は背骨の間に脂肪の塊があります。生後10ヶ月で、背骨を外して脂肪の塊を取り、また背骨を戻す、という手術をしました。背骨が螺旋状になっていて足が細く変形していて、腰から下はグラデーションで感覚がないです。足の感覚がないので、血が出ても気がつかないし、骨にヒビが入っていたとしてもいつ怪我をしたのか分からない。小さい頃は、鬼ごっこで擦り傷を作ったり、血だらけになったりしていました。今は体の使い方がわかってきているので、あまり怪我をしなくなりました。

西村：そうですね。今後はどんな活動をしていきたいですか。

かんばら：自分の表現の幅を広げたいし、ダンスのスキルをあげたいです。ソーシャルサーカスというジャンルがあり、空中ブランコや空中芸もしているので、そういう活動もやっていきたいと思っています。

西村：今日は、お忙しいところ貴重なお話をありがとうございました。

※「障害」という文字表記について
かんばらさんの意見を尊重して「障がい」という表記を使用せずに「障害」という表記にしています。



インタビュー：西村咲枝

